

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

いかなる国際情勢の中でも生き抜く人材育成をめざす。

- 1 自分の意見を堂々と言える能力の育成
- 2 得意技を身に付けさせる
- 3 進路指導の強化

2 中期的目標

1 学力を向上させる

- (1) 学習到達度の目標を具体的に持たせる。
- (2) 学校と家庭で過ごす時間のバランスを考えさせ、放課後や家庭等での学習の質と量を向上させる。
- (3) 授業を少人数展開や習熟度別に適宜行うことにより、学習理解を深化させる。
- (4) 1・2年次の学習内容の定着を図り、3年次の大学入試に向けた学習を効果的に進めさせる。
- (5) 土曜日を学習活動のために有効活用させる。
- (6) 1人1台端末を活用するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善を図り、教員の授業力を向上させる。
※学校教育自己診断（授業外の学習機会）に対する生徒の肯定的回答を令和7年度まで毎年90%以上を維持する。(R2:90%, R3:91%, R4:88%)
※12月の生徒による授業評価で、令和7年度まで毎年、3ポイント以上の教員を80%以上、全教員の授業アンケート総評の平均を3.2以上、それぞれ維持する。(R2:90%, R3:100%, R4:94%) (R2:3.33, R3:3.41, R4:3.37)

2 思考力、判断力及び表現力を育成し、多様性を受入れる態度を醸成する

- (1) 探究に関する授業「IM」やホームルーム等を通して、論理的及び批判的思考力や表現力を育成する。
- (2) 講演会や研修会等を通して、主体的に学び、意見を積極的に述べる態度を育成する。
- (3) 国際交流事業等を積極的に展開し、多様性を受け入れ、他国の人々と協働する態度を育成する。
※授業「IM」に対する生徒による授業アンケート3.2ポイント以上を令和7年度まで毎年、維持する。(R2:3.47, R3:3.47, R4:3.36)
※各種講演会・研修会の事後アンケートで肯定的意見80%以上を令和7年度まで毎年、維持する。(R2:未実施, R3:95%, R4:93%)

3 得意技を身に付けさせる

- (1) 英語4技能5領域をバランスよく指導するとともに、特に「話す」「書く」力を向上させることにより、実践的な英語運用能力を育成する。
- (2) 英語以外の教科や課外活動等で知識や技能を向上させる。
- (3) 高大連携を推進し、より高度な学習及び研究への意欲を醸成する。

4 進路指導を強化する

- (1) 進路行事を積極的に展開し、自分の興味・関心等をもとに将来の目標を考えさせられるよう、キャリア教育を推進する。
- (2) 学習到達度を定期的に測定しながら、自己実現に向けた具体的・計画的な進路指導を行う。
- (3) 入学時から大学入試等の情報や教育産業の進路情報を積極的に活用し、進路選択を支援する。
※学校教育自己診断（きめ細かな進路指導）に対する生徒・保護者の肯定的回答を、令和7年度まで毎年80%以上を維持する。(R2:87%, R3:87%, R4:87%)
※令和7年度にめざす大学合格者数（現役生8クラスの延数）

	京阪神大、早慶上理大等	他の国公立大	関関同立、GMARCH等	産近甲龍等	外国の大学
	10	90	200	300	5
R2	7	52	165	312	0
R3	3	68	210	435	0
R4	1	56	187	289	4

R2～4は9クラス

5 安全安心で魅力ある学校をつくる

- (1) 支援チームを立ち上げ、個別のケースに対応した指導を行う。
- (2) SC及びSSWと連携を密にし、支援を必要とする生徒・保護者への教育相談を行う。
※学校教育自己診断（生徒の相談に丁寧に応じている）に対する生徒・保護者の肯定的回答を令和7年度まで毎年80%以上を維持する。(R2:89%, R3:92%, R4:93%)
- (3) 人権教育推進の観点を踏まえ、学校としての方針を定め、効果的かつ迅速に学校運営を行う。
- (4) 本校の教育方針・教育活動について、あらゆる機会・方法を活用して積極的に発信する。
- (5) 学校運営協議会の提言を踏まえ、学校運営の改善を進める。

6 校務の効率化と働き方改革を推進する

- (1) ICTを活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。
※「校務運営の効率化に向けて各校で導入すべき10項目」の導入を速やかに開始し、令和7年度には10項目の完全実施をめざす。
- (2) 「大阪府部活動の在り方に関する方針」・「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」等を踏まえ、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる。
※時間外勤務月80時間以上の教職員を削減する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 学力を向上させる	<p>(1) 学習目標・内容・学習方法の明確化</p> <p>(2) スケジュール管理等による1・2年生の授業外学習時間の向上</p> <p>(3) 進路・習熟度別に講座編成し、学習内容の理解を深める</p> <p>(4) 授業での学習を定着させる</p> <p>(5) 土曜日を有効な学習の機会として活用する</p> <p>(6) 1人1台端末の活用及び主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善を進める</p>	<p>(1) 各教科の学習到達度を年度当初に明確にし、家庭での学習時間のめやすを示す。</p> <p>(2) ①教科毎の1週間における授業外学習時間の目標を示す。 ②自己のスケジュールを管理させる。 ③補習、講習を効果的に実施する。</p> <p>(3) 1・2学年では、国数英に重点を置いた教育課程を編成する。2学年では、数学を進路別、英語を習熟度別に編成し、学習効果を高める。</p> <p>(4) 授業と予習・復習、小テスト、宿題などの授業を補充する課題を有機的に連動させる。</p> <p>(5) ①1・2年グローバル科には土曜授業を隔週で実施する。 ②1・2年普通科には土曜授業の時間帯に自宅等での学習を進めさせる。 ③3年生には希望者講習を積極的に実施する。</p> <p>(6) ①1人1台端末を活用した授業を展開する。さらに、家庭学習時間も増加させる。 ②教員の相互授業見学や観点別評価の円滑な実施を通して、主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、教科指導力を向上させる。</p>	<p>(1) (3) (4) (5) ・教育産業模試(11月実施)偏差値平均 グローバル科 1年:国54以上/数52以上/英56以上 2年:国54以上/数52以上/英56以上 普通科 1年:国53以上/数51以上/英52以上 2年:国53以上/数51以上/英52以上</p> <p>グローバル科 1年:国50.7/数51.1/英52.2 2年:国52.8/数48.0/英49.3 普通科 1年:国47.2/数47.9/英46.1 2年:国45.9/数45.9/英44.0</p> <p>(2) 週当たりの授業外学習時間校内平均(時間)、昨年度を上回る。</p> <p><1年>学年平均 8.9 グローバル科 : 9.4 普通科 : 8.8</p> <p><2年>学年平均 10.8 グローバル科: 文12.4/理8.8 普通科 : 文10.9/理10.7</p> <p>(6) ①生徒の1人1台端末の活用率を50%以上にする [34%] ②授業アンケート(2回目)の「授業展開」3.3以上を維持する [3.46] ③全教員の授業アンケート総評の平均3.2以上を維持する [3.37]</p>	
2 思考力、判断力及び表現力を育成し、多様性を受入れる態度を醸成する	<p>(1) 論理的・批判的思考力とともに、論理的な文章を書いたり発表したりする表現力を育成する</p> <p>(2) 主体的に学び、積極的に意見を述べる態度を育成する</p> <p>(3) 多様性を享受し、他国の人々と協働する態度を育成する</p>	<p>(1) ①探究に関する授業やホームルーム等を通して、論理的及び批判的思考力や表現力を育成する。 ②論理的な組立てによる小論文作成力を向上させるとともに、プレゼンテーション力を養う。</p> <p>(2) 外部講師を招聘し講演会等を実施する。</p> <p>(3) ①地域の学校支援NPOと連携した海外研修のみならず、他国の人々と協働する修学旅行等を実施する。 ②国内外での研修やオンライン交流等を通してグローバルマインドを涵養する。</p>	<p>(1) ①② 授業「IM」に対する授業アンケート3.2以上を維持する [1年3.39, 2年3.44]</p> <p>(2) 実施後アンケートで肯定的な回答90%以上を維持する [92.7%]</p> <p>(3) ①実施後アンケートで肯定的な回答90%以上を維持する [修学旅行99%] ②海外研修等への参加者数40名以上(修学旅行を除く)を維持する。 [48名]</p>	
3 得意技を身に付けさせる	<p>(1) 英語4技能5領域をバランスよく指導するとともに、特に「話す」「書く」力を向上させることにより、実践的な英語運用能力を育成する</p> <p>(2) 英語以外の教科や課外活動等で知識や技能を向上させる</p> <p>(3) 高大連携を推進し、より高度な学習及び研究への意欲を醸成する</p>	<p>(1) ①グローバル科の英語力をCEFR(*) B1-B2に引き上げる。 (*外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠) ②NETを活用し、英会話講座やイングリッシュ・キャンプ等を通して、生徒の「話す」「聞く」力を向上させる。 ③英語の外部試験の受験を奨励する。 ④グローバル科のディベート授業を通して、論理的に英語で表現する力を養う。</p> <p>(2) 英語以外の教科の学習発表や課外活動等のコンテスト等への参加を奨励する。</p> <p>(3) 大学の講義を受講させたり共同研究などを行ったりする。</p>	<p>(1) ①GTEC for STUDENTS+Speaking 1年:960点以上10名/832点以上40名 704点以上60名/640点以上80名 2年:1088点以上5名/960点以上20名 832点以上60名/704点以上80名 (1年 basic 1080満点、2年 advanced 1280満点) 1年 : 960点以上1名/832点以上54名 704点以上162名/640点以上74名 2年G:1088点以上1名/960点以上8名 832点以上35名/704点以上27名 2年S:960点以上6名/832点以上40名 704点以上116名/640点以上46名 (1年生全体と2年生S科はbasic、2年生G科はadvancedを受験)</p> <p>②参加者数30名以上 [30名] ③英検2級レベル以上40名以上 [35名] ④ディベート指導研修1回以上 [新規]</p> <p>(2) 課外活動等における府大会等レベルでの入賞数3件以上 [5件]</p> <p>(3) 実施予定の大学交流等3件以上 [2件]</p>	

<p>4 進路指導を強化する</p>	<p>(1) 進路行事を積極的に展開し、自分の興味・関心等をもとに将来の目標を考えさせられるよう、キャリア教育を推進する</p> <p>(2) 学習到達度を定期的に測定しながら、自己実現に向けた具体的・計画的な進路指導を行う</p> <p>(3) 大学入試等の情報や教育産業の進路情報を活用し、進路選択を支援する</p>	<p>(1) ①生徒・保護者対象の教育産業等による進路説明会を実施する。 ②大学等に在籍する卒業生や社会人を招聘し、大学での学びや自身の将来の職業等について考えさせる機会を通して、生徒の進路実現に対する動機づけを行う。</p> <p>(2) 教育産業による模擬試験の結果を個人面談や保護者懇談にフィードバックし、生徒の学習計画に役立てさせる。特に、2年次後半に理数系科目の学習継続を諦めさせないよう指導する。</p> <p>(3) ①入学時より大学ごとの偏差値等の情報を提供する。 ②1年次から大学のオープンキャンパス等へ参加させる。 ③外国の大学との連携協定等を活かしながら、外国での大学進学を希望する生徒・保護者に情報提供や進学のための指導等を行う。</p>	<p>(1) ・2023年度大学共通テストの結果 偏差値平均 52 以上の科目を 10 科目以上 (10 人未満の科目は除く) [共通テスト 17 科目中、偏差値 52 以上 11 科目]</p> <p>・2023 年度入試における大学現役合格数 【京阪神大、早慶上理大等】 計 3 以上 京大・阪大・神大 早稲田・慶応・上智・東京理科大等 [1] 【他の国公立大】 計 60 以上 大阪公立・京工繊・大教・奈教・和大等 [56] 【関関同立、GMARCH 等】 計 180 以上 関西・関学・同志社・立命館大 明治・青山・立教・中央・法政・学習院大等 [187] 【産近甲龍等】 計 250 以上 京都産業・近畿・甲南・龍谷大 [289] 【外国の大学】 計 2 以上 米国、カナダ、ニュージーランド、台湾 [4]</p> <p>(2) 学校教育自己診断（進路についての面談や相談が十分に行われている）の生徒・保護者の肯定的回答 80%以上を維持する [生徒 89%、保護者 84%]</p> <p>(3) ①進路説明会 各学年 1 回以上、保護者 1 回以上 [1 年 2 回、2 年 2 回、3 年 2 回、保護者 2 回] ②大学生等の招聘 1 回以上 [1 回] ③海外大学進学指導研修、キャリア教育講座研修 各 1 回以上 [新規]</p>	
<p>5 安全安心で魅力ある学校をつくる</p>	<p>(1) 支援チームを必要に応じて組織する</p> <p>(2) きめ細やかな教育相談体制を維持する</p> <p>(3) 各学年・分掌が人権教育推進の観点を踏まえ、企画・実行する</p> <p>(4) 中学生・保護者を始め、地域に対しても教育活動等を積極的に発信する</p> <p>(5) 学校運営協議会の提言を踏まえ、学校運営の改善を進める</p>	<p>(1) 管理職、担任及び教育相談担当者等からなる支援チームを組織し支援にあたる。</p> <p>(2) ①SC 及び SSW による生徒・保護者への教育相談を実施する。 ②就学対策委員会等を通して、支援が必要な生徒について情報共有するとともに、必要に応じて合理的な配慮を講じる。</p> <p>(3) 全ての教育活動において、いじめ防止等の人権教育推進の観点を踏まえた学校運営を行う。</p> <p>(4) ①スクールライフを正しく理解してもらうとともに、学校の魅力を発信するため、学校説明会や中学校訪問時の説明資料や提示方法を工夫し改善を行う。 ②現行の制服を現代にふさわしい多様性を意識した制服にモデルチェンジする。</p> <p>(5) 学校運営に関する意見、提言等を教職員と共有し、学校運営に取り入れる。</p>	<p>(1) (2) 学校教育自己診断（生徒の相談に丁寧に応じている）の生徒の肯定的回答 80%以上を維持する [肯定的回答 90%]</p> <p>(3) 学校運営に係る研修等 2 回以上を維持する [服務に関する研修 1 回、人権教育推進に関する研修 2 回を実施]</p> <p>(4) 中学生進路希望調査における本校志願倍率 1.3 倍以上を維持する [第 2 回希望調査 1.42 倍]</p> <p>(5) 学校運営協議会から出された提言項目をできる限り学校運営に取り入れる [提言 11 項目のうち 6 項目を取り入れた]</p>	
<p>6 校務の効率化と働き方改革を推進する</p>	<p>(1) 校務の効率化を図り、教職員の時間外在校時間を削減する</p> <p>(2) 労働安全衛生管理体制を充実させる</p>	<p>(1) ICT 等を活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。</p> <p>(2) ①「府立学校における働き方改革にかかる取り組みについて」に沿って業務の見直し・効率化を図る。 ②「全校一斉定時退庁日」を着実に実施する。</p>	<p>(1) 「校務運営の効率化に向けて各校で導入すべき 10 項目」のうち 8 項目を実施。 [新規]</p> <p>(2) ①時間外勤務 80 h / 月以上の教職員を月平均 5 人以下にする。 [新規] ②全校一斉定時退庁日（月曜日）を月曜日とし、全校生徒のノークラブデーとするとともに、教職員は定時に退庁する。 [新規]</p>	